

# 森林環境学習「やまのこ」事業での実施プログラムに関する課題と改善

原田 義子（社会人コース）

## 1. はじめに

森林環境学習「やまのこ」事業が実施され開始後4年が経過するが、どのように運営され、実施されているのか、どのように子ども達に受け入れられているのかに興味を持った。4年生で1泊研修の値打ちがあるのか、遊びで終わってないか、受講時だけで終わってないのか等の疑問もあり、また4年生に出来るのかという不安も感じた。

そこで、環境学習支援士養成講座の課題研究として「やまのこ」事業を取り上げ、その学習内容や実践方法を調べ、より良い「やまのこ」事業の実践にむけて課題や改善点を明らかにすることにした。

## 2. 調査方法

本課題研究は、森林環境学習「やまのこ」事業で実施されているプログラムの実践上の課題を実際に参加することで明らかにし、その改善方法を考察しようとするものである。

そこで、私が栗東市に住んでいることから、栗東市立小学校の「やまのこ」事業を引き受けている栗東市立自然環境体験学習センター「森の未来館」でのプログラム実践を参観することを通して、実践状況および実践上の課題を把握することとした。

本課題研究では、実施日程の都合から、治田小学校、大宝小学校、大宝東小学校、大宝西小学校の実践を参観した。

## 3. プログラムの実施状況と課題

### ○森林学習プログラム

- ・森に親しむ学習…森林ウォーキング、樹木観察、自然体験ゲーム、木登り体験など。
- ・森づくり体験学習…間伐体験、間伐搬出、枝打ち体験、植樹、下草刈、里山整備体験など。
- ・森の恵み利用学習…間伐材を利用した工作、森の木の实や葉などを使ったクラフトなど。
- ・森のレクチャー…山の仕事に関わる人の話、山村文化体験、溪流の水質調べなど。

### ○上記プログラムに関する課題

- ・人員不足のため指導体制・安全管理に不安な点が多く見られた。
- ・マニュアルが統一化されていないため指導時間にバラつきが見られた。
- ・間伐体験など引率教師が未体験であるにもかかわらず指導員にならざるを得ないケースもあった。

## 4. 考察・課題と改善方法

- ・事前準備、説明内容 説明手順、危機管理、時間管理、準備物等の実施マニュアルの整備。
- ・指導員をサポートするボランティア組織の立ち上げと受け入れ体制の確立。  
⇒「お泊り」「丸太きり」「クラフト」等の専門分野だけの単発ボランティアなど。
- ・備品の充実  
資材運搬用の軽トラック、携帯拡声器、子どもが使いやすいクリップボードなど。
- ・指導者（農林課所属、学校教育課所属）、学校、応援者の相互の情報共有と連携。
- ・「やまのこ」を軸にした全学年での継続的な森林環境学習の体系化。